

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所のぞみの家		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 13日		～ 令和 7年 1月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 9日		～ 令和 6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【活動プログラムの充実】 利用児童の特性に合わせて活動プログラムを計画的に作成している。また、学校卒業後の進路なども視野にいれながら、体験活動をおこなっている。	・月単位などで事前に活動プログラムを作成。 ・ミーティングを実施し、活動内容のアイデアを抽出。 ・利用児童に対する支援の評価を職員と共有しながら、日々軌道修正を行う。 ・SSTを活用、対人関係や感情コントロールなどの社会性を一人ひとりのペースに合わせ、丁寧に育む取組みを行う。	・ご家庭や他事業所での取り組みなども、ご家族とのコミュニケーション中で情報共有し、自事業所での活動プログラムに取り入れる。 ・インターネット等で活動プログラムに関する情報収集を行う。
2	【コミュニケーションの充実】 お子様の様子は日々情報共有ツールのケアコラボを使用して、ご家族へお知らせしている。また、送迎時や定期的な面談等でご本人やご家族の思いを確認しながら、日々の支援に反映させて取り組んでいる。	・ケアコラボを通してお子様の様子を画像や動画など、ご家族とタイムリーに情報共有を行う。 ・ご家族に支援の場面を見ていただく機会をつくり、お子様の成長の共有、課題の抽出、今後の支援の方針などを決めている。	・引き続きケアコラボで、支援の効果がより分かりやすく伝わるように画像や動画などを活用して情報共有を行っていく。また、ご家族と対面で双方向のコミュニケーションの場を大切に、ご本人やご家族のサポートを行う。
3	【社会体験・就労体験など将来を見据えた支援】 将来に向けて、ご本人の選択肢や日常生活の視点が少しでも広がるような体験活動を取り入れている。	・将来の目標につながるような就労体験や社会体験の活動機会を設けている。 ・地域の中で違う世代と関わる機会をつくり、社会性を育てている。	・ご本人やご家族のニーズを確認し、活動内容に変化を加えながらマンネリ化しないよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【環境整備】 活動場所の部屋数や環境が限られているため、使用したいときに使用できなかったり、活動の準備などに要する時間など、スムーズに進まないときがある。	・使用予定者の情報共有が見える化する必要がある。	・情報共有ツール(クラウド)を活用し、見通しを立てて活動内容を考える。
2			
3			